

2 長期収支見通し

本計画期間の各施策を推進するにあたっての10年間の収支見通しを策定しました。各年度においては、この長期収支見通しをベースに、各施策の進捗状況、収支の実績、そのほか経営環境の変化等を踏まえ予算編成を行い、本計画の基本理念・将来像の実現を目指します。

(1) 水道事業

(単位:百万円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
有収水量(千m ³ /年)	96,315	95,666	95,034	94,488	93,682	92,891	92,197	91,606	91,037	90,393	
収益的収支	収益的収入	20,145	20,037	19,851	19,756	19,674	19,594	19,515	19,423	19,325	19,237
	うち、料金収入	15,450	15,359	15,269	15,178	15,087	14,996	14,905	14,815	14,724	14,633
	うち、口径別納付金	451	451	451	451	451	451	451	451	451	451
	収益的支出	19,354	19,354	19,428	19,440	19,557	19,587	19,415	19,435	19,570	19,628
	うち、減価償却費	7,777	7,836	7,918	7,979	8,085	8,121	8,013	8,058	8,121	8,167
収支差引	791	683	423	317	117	8	99	▲12	▲245	▲391	
資本的収支	資本的収入	5,152	4,963	4,072	4,082	3,973	3,912	3,902	3,972	3,872	3,823
	うち、企業債	3,350	3,170	3,270	3,280	3,170	3,110	3,100	3,170	3,070	3,020
	うち、基金繰入金	1,000	991	0	0	0	0	0	0	0	0
	資本的支出	13,761	13,751	12,763	12,702	12,340	12,246	12,752	13,044	11,940	11,831
	うち、整備費	8,754	8,886	8,047	7,844	7,494	7,662	8,191	8,472	7,355	7,209
うち、企業債償還金	3,394	3,351	3,264	3,236	3,123	3,169	3,065	3,043	3,034	2,995	
収支差引	▲8,609	▲8,788	▲8,691	▲8,620	▲8,367	▲8,335	▲8,850	▲9,073	▲8,069	▲8,008	
補填財源	7,986	7,944	7,744	7,700	7,588	7,497	7,489	7,433	7,232	7,124	
単年度資金収支	▲623	▲844	▲947	▲920	▲778	▲837	▲1,361	▲1,640	▲837	▲884	
累積資金剰余	5,018	4,174	3,226	2,306	1,528	690	▲671	▲2,310	▲3,147	▲4,031	
企業債残高	59,555	59,375	59,380	59,425	59,471	59,413	59,448	59,574	59,610	59,636	

※表中の数字は四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

○財政見通し

これまでの傾向と同様に、水需要の低下を受け、料金収入は減少する見込みです。

そのため、令和10年度に収益的収支が赤字となり、その後も続く見込みです。

整備費については、事業の選択と集中に取り組み、優先度の高い事業を実施していきます。

財源には企業債を活用していきますが、令和12年度の企業債残高は令和3年度と同程度の額で維持し、将来の負担軽減を図る計画としました。

その結果、資本的収支も含めた単年度資金収支については本計画期間中赤字が続き、これまで確保していた累積資金剰余を活用していくことから、令和9年度に資金不足となることが見込まれます。

そのため、各年度の収支の実績等を踏まえつつ、料金体系について検討するなど、資金不足が生じる前に、収支ギャップを解消する必要があります。

○算定の基本的な考え方

【収益的収入】

- ・料金収入：過去10年の推移から算出
- ・口径別納付金：令和2年度予算

【収益的支出】

- ・減価償却費：現有資産に今後の整備費等を反映し算出

【資本的収入】

- ・企業債：今後の整備費や企業債残高等を踏まえ算出

【資本的支出】

- ・整備費：必要度・優先度を考慮し積算
- ・企業債償還金：これまで発行した分に、新規借入れ分を加えて算出

(2) 水道用水供給事業

(単位:百万円)

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
有収水量(千m ³ /年)		7,300	7,300	7,320	7,300	7,300	7,300	7,320	7,300	7,300	7,300
収益的収支	収益的収入	905	904	905	905	905	906	902	902	901	901
	うち、料金収入	788	788	788	788	788	788	788	788	788	788
	収益的支出	821	830	827	819	812	815	799	791	776	769
	うち、減価償却費	312	307	308	307	308	312	298	299	286	284
収支差引		84	74	78	86	93	91	103	111	125	132
資本的収支	資本的収入	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	資本的支出	227	238	246	276	293	274	277	289	278	335
	うち、整備費	28	35	39	66	80	56	55	64	49	101
	うち、企業債償還金	179	183	186	190	194	198	202	206	210	214
収支差引		▲ 207	▲ 218	▲ 226	▲ 256	▲ 273	▲ 254	▲ 257	▲ 269	▲ 258	▲ 315
補填財源		306	292	297	304	312	313	315	324	326	332
単年度資金収支		99	74	71	48	39	59	58	55	68	17
累積資金剰余		2	76	148	196	235	293	351	406	474	490
企業債残高		3,509	3,326	3,140	2,950	2,756	2,558	2,357	2,151	1,942	1,728

※表中の数字は四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

○財政見通し

事業開始から10年を経過するため、施設の更新費用(整備費)が高くなっていきますが、収益的収支、資本的収支を踏まえた単年度資金収支は黒字を見込んでいます。

企業債は、新たな借入れを行わないため、令和12年度の企業債残高は令和3年度と比べ、半分程度となる見込みです。

本計画期間中は累積資金の不足が解消され、順調な経営を維持できる見込みです。

○算定の基本的な考え方

【収益的収入】

- ・料金収入：現契約の供給水量・単価

【収益的支出】

- ・減価償却費：現有資産に今後の整備費等を反映し算出

【資本的収入】

- ・企業債：新規発行なし

【資本的支出】

- ・整備費：必要度・優先度を考慮し積算

(3) 工業用水道事業

(単位:百万円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
契約水量(千 ³ 米/日)	201	201	201	201	201	201	201	201	201	201	
収益的収支	収益的収入	1,976	1,975	1,983	1,981	2,018	2,001	2,002	1,996	1,995	1,994
	うち、料金収入	1,694	1,692	1,696	1,692	1,725	1,730	1,735	1,730	1,730	1,730
	収益的支出	1,732	1,761	1,735	1,751	1,784	1,789	1,774	1,781	1,793	1,807
	うち、減価償却費	658	676	691	707	729	714	720	733	739	750
収支差引	244	213	249	230	234	212	228	215	202	186	
資本的収支	資本的収入	284	272	310	270	309	312	323	326	324	337
	うち、企業債	120	110	140	110	140	140	150	150	150	160
	うち、国庫補助金	37	34	42	32	41	44	46	48	47	50
	資本的支出	1,171	955	1,356	1,330	1,267	1,024	1,012	1,067	1,084	1,046
	うち、整備費	821	628	1,049	1,008	966	726	709	787	803	767
	うち、企業債償還金	160	140	143	134	111	109	113	91	91	90
収支差引	▲ 887	▲ 683	▲ 1,046	▲ 1,060	▲ 958	▲ 712	▲ 689	▲ 741	▲ 760	▲ 709	
補填財源	705	689	739	734	755	738	764	765	760	756	
単年度資金収支	▲ 182	6	▲ 308	▲ 327	▲ 203	25	75	24	1	47	
累積資金剰余	1,909	1,915	1,607	1,281	1,078	1,103	1,178	1,202	1,202	1,250	
企業債残高	1,841	1,811	1,808	1,785	1,813	1,845	1,881	1,941	2,000	2,069	

※表中の数字は四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

○財政見通し

料金収入については、現在の契約をベースに算定しているため、本計画期間では安定して推移していきます。

一方、支出については、老朽化した施設の更新などで増加していますが、その財源は企業債やこれまでの累積資金剰余を活用します。

資本的収支を含めた単年度資金収支は、令和8年度以降、黒字を確保できますが、令和3年度と比べ、令和12年度には企業債残高は微増し、累積資金剰余は減少する見込みです。

○算定の基本的な考え方

【収益的収入】

- ・料金収入：現契約の供給水量・単価

【収益的支出】

- ・減価償却費：現有資産に今後の整備費等を反映し算出

【資本的収入】

- ・企業債：今後の整備費や単年度資金収支等を踏まえ算出

【資本的支出】

- ・整備費：必要度・優先度を考慮し積算
- ・企業債償還金：これまで発行した分に、新規借入れ分を加えて算出

(4) 下水道事業

(単位: 百万円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
有収水量(千 m^3 /年)	92,639	91,899	91,160	90,420	89,681	88,941	88,201	87,462	86,722	85,982	
収益的収支	収益的収入	27,911	27,737	27,326	27,045	26,986	26,689	26,531	26,317	25,874	
	うち、下水道使用料収入	14,950	14,764	14,578	14,392	14,206	14,020	13,834	13,648	13,275	
	うち、一般会計繰入金	6,212	6,227	6,009	5,898	6,010	5,875	5,917	5,894	5,822	
	収益的支出	27,222	27,114	27,025	26,993	26,986	27,028	27,032	27,050	26,995	27,094
	うち、減価償却費	15,881	15,838	15,856	15,900	15,942	16,005	15,970	15,956	15,899	15,958
収支差引	689	623	302	53	0	▲ 339	▲ 501	▲ 733	▲ 841	▲ 1,220	
資本的収支	資本的収入	13,533	13,340	14,221	13,155	13,063	12,047	13,258	13,600	14,049	13,895
	うち、企業債	6,200	6,372	6,348	6,251	6,290	6,377	6,179	6,018	6,118	6,077
	うち、国庫補助金	4,913	4,916	4,945	4,168	4,108	4,123	4,388	4,584	4,418	4,463
	資本的支出	25,203	25,171	25,058	24,080	24,285	22,807	23,798	23,919	24,285	23,772
	うち、整備費	12,180	12,412	12,410	11,503	11,495	11,625	11,627	11,608	11,575	11,565
	うち、企業債償還金	9,063	8,737	8,698	8,567	8,734	7,042	8,051	8,155	8,505	7,922
	収支差引	▲ 11,670	▲ 11,831	▲ 10,837	▲ 10,925	▲ 11,222	▲ 10,760	▲ 10,539	▲ 10,319	▲ 10,236	▲ 9,877
補填財源	11,333	11,262	10,930	10,709	10,682	10,382	10,199	9,958	9,814	9,473	
単年度資金収支	▲ 338	▲ 569	92	▲ 217	▲ 540	▲ 378	▲ 341	▲ 361	▲ 422	▲ 404	
累積資金剰余	3,218	2,650	2,742	2,525	1,985	1,607	1,266	906	484	80	
企業債残高	146,432	144,067	141,717	139,401	136,956	136,291	134,419	132,282	129,895	128,050	

※表中の数字は四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

○財政見通し

水道事業と同様に水需要の低下により、使用料収入は減少していく見込みです。一方、収益的支出は、概ね横ばいで推移する見込みのため、収益的収支は令和 8 年度以降赤字が続くと見込まれます。

資本的収支は、更新時期を迎える施設が増えていくことから、事業費の増加を見込んでいますが、国からの補助金や企業債を活用します。

企業債残高については、償還額が新規借入れ分を上回るため、順調に減少する見込みです。

資本的収支を含めた単年度資金収支では、赤字が続くため累積資金剰余が減少し、令和 12 年度には資金不足目前の状況になる見込みです。

そのため、各年度の収支の実績等を踏まえつつ、使用料体系について検討するなど、資金不足が生じる前に、収支ギャップを解消する必要があります。

○算定の基本的な考え方

【収益的収入】

- ・ 使用料収入：過去 10 年の推移から算出
- ・ 一般会計繰入金：繰出基準から算出

【収益的支出】

- ・ 減価償却費：現有資産に今後の整備費等を反映し算出

【資本的収入】

- ・ 企業債：今後の整備費、国庫補助金、単年度資金収支等を踏まえ算出
- ・ 国庫補助金：現行制度対象事業から算定

【資本的支出】

- ・ 整備費：必要度・優先度を考慮し積算
- ・ 企業債償還：これまで発行した分に、新規借入れ分を加えて算出

3 進捗管理

本計画の推進にあたり、計画策定後の社会情勢の変化などに柔軟に対応するため、毎年の事業の継続的な改善を重ねるPDCA サイクル*を構築し、効率的・計画的に運用を行います。

- 「Plan」 : 計画・目標（課題に対応した目標設定、取組項目）
- 「Do」 : 事業実施
- 「Check」 : 検証（本市行政評価、市議会、上下水道事業検討会、お客さまのこえ など）
- 「Action」 : 見直し（検証結果を踏まえた施策・事業の再検討による見直し）



資料編

- 策定の経過
- 用語解説



策定の経過

本計画の策定にあたっては、水道事業・下水道事業・公営企業経営の専門家や関係団体などで構成する「北九州市上下水道事業検討会」において、さまざまなご意見いただきながら検討してきました。

また、お客さまや事業者へのアンケート調査による多くのご意見も踏まえながら、計画を策定しました。

1 北九州市上下水道事業検討会

○令和元年度構成員名簿（五十音順、敬称略）

【 ◎：座長 ○：副座長 】

氏名	所属等
おぼた ゆきこ 小畑 由紀子	北九州市食生活改善推進員協議会 会長
きくち ゆうこ 菊池 裕子	九州共立大学 経済学部 教授
さとう ゆうや 佐藤 裕弥	早稲田大学 研究院 准教授 早稲田大学 総合研究機構 水循環システム研究所 主任研究員
たくわ 多久和 さやか	国際協力機構 九州センター
○ ふくち まさよし 福地 昌能	福地公認会計士事務所 所長
みかみ ひさえ 三上 久恵	北九州市環境衛生総連合会 会長
みやうち きよし 宮内 潔	日本水道協会 大阪支所長
◎ やない まさと 柳井 雅人	北九州市立大学 副学長
よしもと なつこ 吉本 奈津子	北九州市上下水道モニター
わたなべ とおる 渡辺 亨	日本下水道協会 企画調査部長

○令和2年度構成員名簿（五十音順、敬称略）

【 ◎：座長 ○：副座長 】

氏名	所属等
おぼた ゆきこ 小畑 由紀子	北九州市食生活改善推進員協議会 会長
きくち ゆうこ 菊池 裕子	元 九州共立大学 経済学部 教授
さとう ゆうや 佐藤 裕弥	早稲田大学 研究院 准教授 早稲田大学 総合研究機構 水循環システム研究所 主任研究員
たいら ともこ 平 知子	国際協力機構 九州センター 市民参加協力課 課長
○ ふくち まさよし 福地 昌能	福地公認会計士事務所 所長
みかみ ひさえ 三上 久恵	北九州市環境衛生総連合会 理事
◎ やない まさと 柳井 雅人	北九州市立大学 副学長
やまの かずや 山野 一弥	日本水道協会 大阪支所長
よしもと なつこ 吉本 奈津子	平成30年度・令和元年度 北九州市上下水道モニター
わたなべ とおる 渡辺 亨	日本下水道協会 企画調査部長

○開催経過

年度	開催日		議題	
令和元年度	第1回	令和元年 7月 29日	基本計画	策定の趣旨、上下水道事業の概況
	第2回	令和元年 10月 4日		現状と課題
	第3回	令和元年 10月 29日		基本理念と将来像
	第4回	令和元年 12月 12日		重点施策
令和2年度	第1回	令和2年 7月 30日	基本計画	収支見通しと料金について
	第2回	令和2年 10月		基本計画（素案）について
	第3回	令和2年 11月 12日	中期経営計画	事業計画・財政計画
	第4回	令和2年 11月 27日		中期経営計画（素案）
	第5回	令和3年 2月 22日	基本計画・ 中期経営計画	パブリックコメント結果

※令和2年度第2回事業検討会は「書面会議」として開催しました。

2 上下水道に関するお客さま・事業者アンケート調査結果について

(1) 調査の時期・対象

①時期

令和元年10月調査実施（前回 平成27年1月調査実施）

②対象

○お客さまアンケート調査

北九州市、芦屋町及び水巻町 3,000人

（北九州市2,900人、芦屋町40人、水巻町60人。無作為抽出）

⇒回答1,027人、回答率34.2%

○事業所アンケート調査

一般給水事業者のうち、平成30年度使用水量上位300社（大口利用者）

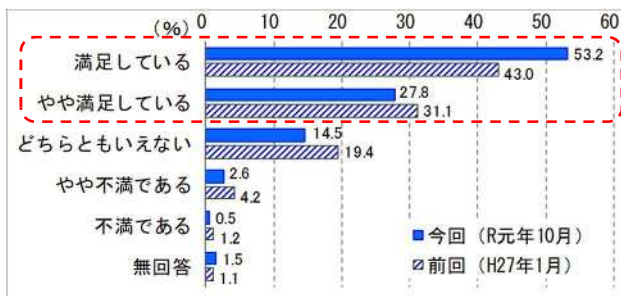
⇒回答143社、回答率47.6%

(2) 調査結果（主な項目）

①満足度

お客さまアンケート調査と事業所アンケート調査ともに、満足度（「やや満足している」を含む）は前回より上昇。

お客さまアンケート 問1より



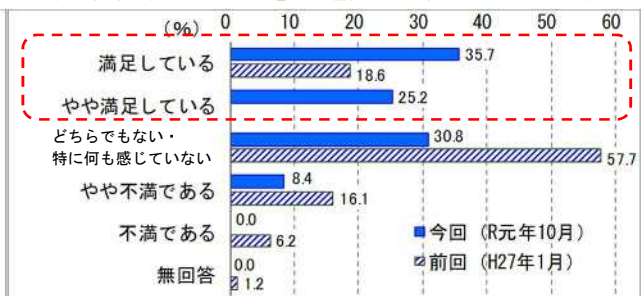
「満足している」＋「やや満足している」

前回：74.1% ⇒ 今回：81.0%

(+6.9ポイント)

事業所アンケート 問1より

（「やや満足している」の選択肢は今回調査で追加）



「満足している」

前回：18.6% ⇒ 今回：35.7%

(+17.1ポイント)

②厳しい経営環境を踏まえ、最も重視する項目

お客さま・事業者アンケート調査ともに、水道水の水質などの安全性を最も重視。

お客さまアンケート 問4より



事業者アンケート 問3より



3 「北九州市上下水道事業基本計画 2030」（素案）に対する市民意見の募集結果について

(1) 意見募集期間

令和2年12月15日から令和3年1月14日まで

(2) 意見提出状況

①提出者数 36人・団体

②提出された意見の内容

(単位：件)

内容	基本計画	両計画 (※)	その他	計
計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見	1	8	0	9
計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見	3	44	0	47
計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見	3	3	0	6
その他の意見	1	0	1	2
計	8	55	1	64

参考：将来像ごとの区分

(単位：件)

意見の区分	基本計画	両計画 (※)	計
計画全般及び基本的方向性について	2	14	16
「将来像1 市民生活を支える強靱な上下水道をつくる」について	1	13	14
「将来像2 いつでも安心して飲める安全な水を届ける」について	0	0	0
「将来像3 環境負荷の低減を図り、持続可能な社会に貢献する」について	1	2	3
「将来像4 国内外へ貢献していく」について	3	7	10
「将来像5 お客さまが求めるものをかたちにする」について	0	6	6
「将来像6 培われた技術を未来へつなぐ」について	0	5	5
「将来像7 健全な経営を行う」について	1	8	9
小計	8	55	63
その他の意見			1
合計			64

(3) 計画への反映状況

(単位：件)

反映結果	基本計画 への意見分	両計画(※) への意見分	その他の 意見	計
計画に掲載済	4	25	0	29
計画の追加・修正あり	2	1	0	3
計画の追加・修正なし	0	2	0	2
その他(個別施策に対する意見・要望等)	2	27	1	30
計	8	55	1	64

(※) 両計画：一緒にパブリックコメントを実施した、「北九州市上下水道事業基本計画 2030」と「北九州市上下水道事業中期経営計画 2025」の両方の計画

用語解説

[あ]

●アセットマネジメント

資金調達、会計手法から、施設、組織・人的資源などの全てを対象に、長期的視点に立って、効率的、効果的に管理・運営する体系化された実践活動・手法。

●うすいちよりゆうかん雨水貯留管

集中豪雨などの際に、一時的に雨水を貯め、浸水被害を軽減するための施設。

●おたくらかりょう汚濁負荷量

排水される汚濁物質量。水量と汚濁物の濃度を乗じて求める。

●おでいねんりょうかぶつ汚泥燃料化物

乾燥または炭化過程を利用し、下水汚泥から製造した固形燃料。

●おんががわすいけいみずかんきょうほぜん さいせいすいしんきょうぎかい遠賀川水系水環境保全・再生推進協議会

事務局は、国土交通省遠賀川河川事務所。遠賀川水系の水環境の保全・再生を図ることを目的とし、水質の保全やごみ問題に取り組む団体。

本市は、北九州地区推進部会会長として、地区の取りまとめを行っている。

●おんががわすいけいすいどうじぎょうしゃれんらくきょうぎかい遠賀川水系水道事業者連絡協議会

事務局は、本市上下水道局。遠賀川水系から利水する流域 16 市町の水道事業者及び 1 民間事業者により構成される。遠賀川水系の水質、浄水処理技術などの情報交換や、水質保全事業に関する活動を行っている団体。

[か]

●かんいしより こうどか簡易処理の高度化

合流式下水道で整備された浄化センターは、雨天時に増加した下水を処理するため、通常、沈殿と消毒による簡易処理を行っている。簡易処理で行う「沈殿処理」を「ろ過処理」に置き換えることで、従来の簡易処理と比較して処理水質が大幅に向上する。

●きかんかんろ基幹管路

本市では、次の 3 つを「基幹管路」と定義している。

① 導水管 . . .

水源から浄水場まで水を送る水道管

② 送水管 . . .

浄水場から配水池まで水を送る水道管

③ 配水本管 . . .

配水池から各家庭に水を送る水道管のうち、配水支管へ輸送・分配する機能を持つ主要な水道管

●きぎょうさい企業債

地方公営企業が行う建設、改良などに要する資金に充てるために起こす地方債。(借入金)

●(株)きたきゅうしゅう北九州ウォーターサービス

本市の上下水道施設の効率的・安定的な運営、水道事業の広域化や海外水ビジネスへの対応のため、市と一体的な取組みを行う外郭団体として、平成27年12月に市が最大出資者となって設立した株式会社。

●きたきゅうしゅうしこくらしんぶしんすいたいさくすいしん北九州市小倉都心部浸水対策推進プラン

小倉都心部において、近年多発する豪雨による浸水被害に対し、住民が安心して暮らせるよう、関係分野の行政機関や住民などが連携して、浸水被害の軽減を図るために実施する計画。

●きたきゅうしゅうしちいきぼうさいけいかく北九州市地域防災計画

市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、北九州市防災会議が本市の地域にかかわる災害の対策について、災害の予防、災害応急対策及び災害復旧・復興についての事項を定めた計画。

●けっさいキャッシュレス決済

現金を使用せずに決済を行うこと。クレジットカード、電子マネー、デビットカード、スマートフォンやインターネットを使った支払などがこれにあたる。

●きゅうすいかん給水管

配水管の分岐箇所から各家庭や建物へ水を供給する水道管。

●げすいどうびーしーびー下水道BCP(業務継続計画)

BCPはBusiness Continuity Planの略。地震などにより下水道施設が被災した場合でも、下水道が果たすべき機能を継続的に確保するため、下水道施設が復旧するまでの間において、代替手段により同様の機能を提供するための計画。

●こういきひなんち広域避難地

地震などによる災害が発生した場合に避難する場所。概ね10ヘクタール以上の都市公園など。

●こうりゅうしきげすいどう合流式下水道

汚水と雨水を同一の管路で下水処理場まで排除する下水道。

[さ]

●しせつ ちょうじゅみょうか施設の長寿命化

既存施設を長期にわたり活用するために、予防保全的な管理、修繕、あるいは部分取替などにより、耐用年数の延伸を図ること。

●しょうきぼちよすいそうすいどう小規模貯水槽水道

水道水のみを水源とした小規模な貯水槽(貯水槽の有効容量が10m³以下)を有する施設。

●水道トライアングルシステム

事故や災害時でも安定した給水を行うため、穴生浄水場と本城浄水場、さらに井手浦浄水場の3つの基幹浄水場を結ぶ送水システムのループ化を行うこと。これにより、浄水場間のバックアップ機能の強化が図られる。

●世界の環境首都

本市は市民・NPO・事業者・行政などのあらゆる主体が協働して、平成16年に「環境首都グランド・デザイン」を策定し、人類の生存と将来をおびやかす地球環境の問題に全力をあげて取り組み、環境首都として世界に認められる都市を目指している。

[た]

●直結式給水

水道水を配水管から蛇口まで直接供給する方式。

●テストベッド

新技術の実証実験のために使われる、実際の運用環境に近づけた試験用プラットフォーム。

●デモプラント

実証実験のためのテスト用プラント。

[な]

●内水浸水想定区域図

内水氾濫（河川が溢れなくても、くぼ地などにおいて雨が排水できずに浸水すること）による浸水が想定される区域を示した地図。

【参考】

●外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防を越える、もしくは破堤して浸水すること。

[は]

●バイオガス発電

有機性資源を原料として、メタン発酵によって生産されるガスを利用した発電。バイオガスは、化石燃料に代わるエネルギーとして、地球温暖化対策の観点からも注目されている。

●配水管

配水池から各家庭や建物への給水管に分歧させる水道管。

●配水池

浄水場から送られた浄水を一時的に貯留し、需要量に応じて流出制御を行う施設。

●配水ブロック

水量・水圧を管理するために、地形条件などを考慮し、配水区域を分割したもの。本市は給水区域全体を90の配水ブロックに分割して管理を行っている。

●ハザードマップ

自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所、防災関係施設の位置などを表示した地図。

●ビッグデータ

多種多様な巨大なデータ群のこと。情報通信技術（ICT）の進歩によってインターネット上で収集できるようになり、AI の発達によって幅広く分析に活用されつつある。

●ぶんりゅうか分流通

合流式下水道を改善する際に、新たに雨水管を整備し、既設の合流管を污水管として利用することで分流式下水道とすること。

●ぶんりゅうしきげすいどう分流式下水道

污水用管路と雨水用管路の2つを埋設し、污水は下水処理場へ、雨水は川や海に直接放流する下水道。

●ほうかつぎょうむいたく しゅたく包括業務委託（受託）

地方公共団体が行政責任を果たすうえで、必要な監督権などを留保しながら、その事務を包括的に民間企業、外部の団体及び個人などに委託すること。（包括業務受託は当該委託を受けること。）

●ほく ぶんらくおかきんきゅうれんらくかん北部福岡緊急連絡管

福岡県西方沖地震のような自然災害及び施設事故など、緊急時に水道水を相互融通することを目的に整備した北九州市と福岡都市圏を結ぶ水道管。

[ま]

●みずあんぜんけいかく水安全計画

WHO の飲料水水質ガイドラインをもとに、食品の衛生管理の方法として開発された HACCP（ハサップ）の考え方を組み込み、常に信頼性（安全性）の高い水道水の供給を確実にする水道システムを構築するための計画。

[や]

●ゆうしゅうすいりょう有収水量

料金徴収の対象となった水量。

[ら]

●えるしーしーライフサイクルコスト（LCC）

施設・設備における新規整備、維持、修繕、改築等を含めた生涯費用の総計。初期建設費であるイニシャルコストと、エネルギー費、保全費、改修費、更新費などのランニングコストにより構成される。

●るいせきしきんじょうよ累積資金剰余

資金収支の累積剰余額を表すものであり、基本的には流動資産が流動負債を超える額をいう。

●ループ化^か

市内の主要な送水管や配水管を他系統と環状につなぎ合わせる。これにより、主要送水管路のある箇所でも事故が発生しても、別の系統を使用して送水が可能となるため、大幅な事故対応能力の向上が図られる。

[A]

●AI^{えーあーい}

Artificial Intelligence（アーティフィシャル インテリジェンス）の略。人工知能。過去のデータから最適な答えを検出する機能を持つ。

[I]

●ICT^{あーいしーてーい}

Information & Communications Technology（インフォメーション アンド コミュニケーションズ テクノロジー）の略。情報通信技術。パソコン、スマートフォンなど様々な形状の端末を使って情報を処理し、情報を双方向でやり取りしたり、共有する技術の総称。

●IoT^{あーいおーてーい}

Internet of Things（インターネット オブ シングズ）の略で、「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、新たな付加価値を生み出すこと。

[P]

●PDCAサイクル^{びーてーいしーえー}

管理業務を計画とおりスムーズに進めるための管理方法の一種で、サイクルを構成する4段階の Plan（計画を立てる）、Do（実行する）、Check（点検・評価する）、Action（改善策を講じる）の頭文字をつなげたもの。このプロセスを繰り返し、成果の向上および継続的な業務改善を推進するためのマネジメント手法をいう。

[S]

●SNS^{えすえぬえす}

Social Networking Service（ソーシャル ネットワーキング サービス）の略。登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと。

余 白



北九州市上下水道事業基本計画 2030

北九州市 上下水道局 経営企画課

〒803-8510 北九州市小倉北区大手町 1-1

TEL (093)582-3135

FAX (093)582-3100